

# 福島県立医科大学々報

## 目 次

○ 学 事	-----	
平成21年 4 月 6 日入学式学長式辞	.....	2
平成21年度入学者数	.....	2
平成20年度医学博士授与者（後期）	.....	3
○ 人 事	-----	
企画室・評価室・知的財産管理活用オフィス・危機管理室・名誉教授・新任准教授・ 新任講師・新任事務局職員等	.....	4
○ 諸 規 程 改 正	-----	
平成21年 2 月から 5 月までの諸規程の制定改廃関係	.....	4
○ 役 員 会 ・ 経 営 審 議 会 ・ 教 育 研 究 審 議 会 ・ 医 学 部 教 授 会	-----	
役員会	.....	6
経営審議会	.....	6
教育研究審議会	.....	6
医学部教授会	.....	7
○ 雑 報	-----	
倫理委員会	.....	7
講座の名称変更等について	.....	9
学生の部活動報告（陸上競技部、赤十字奉仕団）	.....	9

## 学 事

### ■ 平成21年 4 月 6 日 福島県立医科大学 入学式

#### 学 長 式 辞

福島県立医科大学長 菊 地 臣 一

本日ここに、福島県知事様、福島県議会議長様をはじめ御来賓の皆様、御臨席と保護者の皆様、御列席のもと、平成21年度福島県立医科大学入学式を執り行うことができますことは、本学にとりまして大変喜ばしいことであります。福島県立医科大学及び大学院に入学を許可されました皆さん、誠におめでとうございます。教職員一同、皆さんの入学を心から歓迎いたします。私たち教職員は、皆さんのそれぞれの夢の実現のために、あらゆる面で応援いたします。また、本日の慶びにいたる道のりを温かく見守り、励まし、導いてこられた保護者や先生の皆様には、お子様や教え子の晴れ姿を前に、これまでの歩みを振り返り胸に迫るものがあるかと存じます。

入学式とは「未来の覚悟」を表明する場です。今日、新たな一步を踏み出した皆さん、本学での出会いを大切にしてください。人生は出会いに尽きます。出会いは自分を成長させ、そして人生を豊かにしてくれます。「出会い」に運命的な出会いなどというものはなく、出会った後の、お互いが相手を信頼しての長い日々の営みの積み重ねの結果が「生涯の友人や恩師」を作っていくのだと思います。

将来、皆さんが医療人として現場で向き合う相手は、突然の病に苦悩している人々です。不条理と矛盾に満ちた医療や看護の現場において、プロとしての医療人に求められるのは、共感の提示と病める人々を包容できる人間的な豊かさです。医療人として求められるプロフェッショナルリズムとは、まず、目的に対する単純強固な意志です。第二に、低い水準における満足感の拒否です。第三に、栄光の影の骨身を削る努力です。最後に、自らの努力無くして人生の果実を期待しないことです。このプロの精神を、これからの日々、胸に刻んで学生生活を送って下さい。医学、看護学は、病を防ぎ、癒し、そして健康に過ごしたいという、人間の根源的な願いに応えようとする学問であり、その実践が保健・医療・福祉の現場です。これからは、君達は「何になったか」ではなく「何をしたか」が問われるのです。学びの日々の中で、皆さんはこれから様々な挫折を味わう筈です。その時、自分が入学式で何を目的にその場にいたのか、原点を思い出して動く生きていて下さい。恐れたり怯むことはありません。人間は、皆失敗しながら生きています。そして、幾ばくかの苦悩や喪失を日々繰り返しています。「挫折の数だけ動く、そして優しくなれ

る」ことを信じて頑張ってください。そして、人間というものは、人生が配ってくれたカードでやっていくもので、配られたカードが悪いと愚痴をこぼしたりするものではありません。人生こうしようあしよう計画を立てて、自分の人生を考えても、その通りになることはありません。殆ど違った方向へ行ってしまう。でも、大切なことはその場その場で自分のベストを尽くすことなのだと思います。

私の医療従事者としての長い経験から、世の中には変わるものも多いが、変わらないものも少なくない、というのが実感です。その中から皆さんに三つの言葉を贈ります。一つは、「愚直なる継続」です。何でもよいですから、毎日継続できるものを決めて取り組んでみて下さい。毎日5分間、本を開くことでも結構です。大切なのは、本を読み理解することではなく、開くだけでよいのです。その積み重ねを3年間続けると、もはや誰も到達できない境地に達することが出来ます。プロとしての医療人にとっては、愚直なる継続が最大の武器であり、大成する王道です。もう一つは「修行とは矛盾に耐えること」です。それに耐えられなければ医療のプロとして一人前にはなれません。「大事争うべし、些事構うべからず」です。先輩や教師は、皆さんがひたむきに努力している姿をみると、皆さんを愛しく思い、教え育もうという熱意を持てるのです。「人生の扉は他人が開く」のです。

最後に、「誇り」です。誇りは、人生の道々で出会うであろう様々な苦難に立ち向かうとき、自分を支えてくれる最大、そして唯一の拠り所になります。頭を下げないことが「誇り」ではなく、頭を下げた後に残るものが真の「誇り」です。君達がこれから身につける白衣は、着る者に覚悟を強めます。白衣は君達に誇りを持つこと、そして厳しさに耐えることを求めています。福島県立医科大学は、母体となった福島県立女子専門学校が創立されて以来、六十有余年の歴史があります。この歴史の続きには、真っ白なページが無限に用意されています。福島県立医科大学の歴史に新たなページを書き足すのは、今ここにいらっしゃる皆さんです。皆さんがどのようなページを書き足すのか、私たちは今から楽しみにしております。無限の可能性を秘めた皆さんの、今後の成長に期待して式辞といたします。

### ■ 平成21年度福島県立医科大学入学者数

#### ① 医学部新生 100名

	男	女	計
県 内	31 名	11 名	42 名
県 外	30 名	28 名	58 名
計	61 名	39 名	100 名

② 看護学部新入生 91名 (うち3年次編入生6名)

※ ( ) は編入生

	男	女	計
県内	4名(0名)	72名(5名)	76名(5名)
県外	0名(0名)	15名(1名)	15名(1名)
計	4名(0名)	87名(6名)	91名(6名)

③ 大学院新入生 43名

	男	女	計
医学研究科 (博士課程)	15名	9名	24名
医学研究科 (修士課程)	5名	2名	7名
看護学研究科 (修士課程)	3名	9名	12名
計	23名	20名	43名

看護学研究科

がん看護学領域	1名
精神看護学領域	5名
生態看護学領域	4名
小児看護学領域	1名
地域看護学領域	1名

■ 平成20年度医学博士授与者 (後期)

[平成21年3月授与]

氏名 学位 論文名

埜口 千里	Inhibitory Effects of Isoliquiritigenin and Licorice Extract on Voltage Dependent K <sup>+</sup> Currents in H9c2 Cells (イソリクイリチゲニンと甘草によるH9c2細胞の電位依存性カリウム電流抑制作用)
加藤 欽志	Participation of 5-hydroxytryptamine in pain-related behavior induced by nucleus pulposus applied on the nerve root in rats (腰椎椎間板ヘルニアの脊髄神経根障害におけるセロトニンの関与)
鈴木 直子	地域在住高齢者のIADLの「実行状況」と「能力」による評価の検討 —基本チェックリストと老研式活動能力指標から—
大歳 憲一	The reactions of glial cells and endoneurial macrophages in the dorsal root ganglion and their contribution to pain-related behavior after application of nucleus pulposus onto the nerve root in rats (ラット髄核留置モデルにおける後根神経節

小林 義尊	グリア細胞と神経内マクロファージの反応と疼痛関連行動との関係 Augmented cerebral activation by lumbar mechanical stimulus in patients with chronic low back pain - an fMRI study (慢性腰痛患者における疼痛関連脳活動)
中牧慎太郎	Adenovirus-mediated expression of adiponectin reduced the proteinuria in STZ induced diabetic Wistar rats (アディポネクチン過剰発現は、糖尿病性腎症ラットにおける蛋白尿を減少する)
加藤 保信	Serum levels of GRO- $\alpha$ as a reliable marker for disease activity in patients with Behcet's disease (ベーチェット病患者における病勢の有用な指標としてのGRO- $\alpha$ の血清中レベル)
伊藤 明子	多嚢胞性卵巣症候群における子宮内膜の性ステロイドホルモン環境とメトホルミン投与による変化
川本 和久	トップアスリートの適正な「走る距離」は予測できるか
米地 敦	Prediction of Recurrence by Combination Analysis of Molecular Markers using Tissue Microarray Analysis with FDG-PET in patients with Non-small cell lung cancer (細胞増殖関連分子の発現とFDG-PET集積度を用いたクラスター解析による肺癌の再発予測診断の可能性)
佐瀬善一郎	Activation of the Sonic Hedgehog Pathway and its Prognostic Impact in Patients with Gastric cancer (胃癌におけるsonic hedgehog pathwayの活性化とその予後予測効果)
斎藤 隆晴	Mitomycin-C treatment significantly reduces central damage of islets in culture (Mitomycin-C処置は、培養における膵島のcentral damageを有意に減少させる)
若松 大樹	Pharmacological cardiac stabilization during off-pump coronary artery bypass: Effects of landiolol hydrochloride, a novel short-acting $\beta$ 1 receptor antagonist (心拍動下冠動脈バイパス術における超短時間作用型 $\beta$ 1遮断薬(ランジオロールハイドロクロライド)を用いた薬理学的心表面固定法の評価)
五十嵐康弘	大腸腫瘍の良悪性鑑別における18F-FDG PET 2回撮像法の有用性についての検討

伊藤 常久 高齢者ボランティアを活用した体操の普及を中心とする地域介入の実行可能性とその効果  
 楊 巧会 DNA methylation of MAOA and MAOB genes in postmortem brains of schizophrenics  
 (統合失調症死後脳における MAOA と MAOB の DNA メチル化の検討)  
 伊藤 泰輔 硬さセンサーを用いた乳腺疾患検出装置の開発  
 丸 浩明 マグネシウムの鎮痛作用

**人 事**

(平成21年 6 月 1 日現在)

◎企画室

21.4.1 室員 熊本 俊博  
 (事務局次長)

◎評価室

21.4.1 室員 熊本 俊博  
 (事務局次長)

◎知的財産管理活用オフィス

21.4.1 室員 熊本 俊博  
 (事務局次長)

◎危機管理室

21.4.1 室員 熊本 俊博  
 (事務局次長)

21.4.1 室員 本田 隆治  
 (附属病院事務部参事兼医事課長)

21.4.1 室員 清水 勝夫  
 (総務課長)

21.4.1 室員 井出 孝利  
 (企画財務課長)

◎名誉教授

21.4.1 鈴木 利光

21.4.1 佐藤 章

21.4.1 落合 威彦

◎新任准教授

昇任 21.4.1 医学部公衆衛生学講座 後藤 あや

昇任 21.4.1 医学部脳神経外科学講座 佐久間 潤

昇任 21.6.1 附属病院総合周産期母子医療センター  
 桃井 伸緒

◎新任講師

採用 21.4.1 医学部免疫学講座 関根 英治

昇任 21.4.1 医学部公衆衛生学講座 横川 博英

採用 21.4.1 医学部脳神経外科学講座 渡邊 督

昇任 21.6.1 附属病院内視鏡診療部 引地 拓人

◎新任事務局職員等

発令 21.4.1 事務局次長兼法人経営室長 熊本 俊博  
 昇任 21.4.1 附属病院事務部参事兼病院経営課長

清野 隆彦  
 転入 21.4.1 附属病院事務部参事兼医事課長 本田 隆治

転入 21.4.1 総務課長 清水 勝夫

転入 21.4.1 企画財務課長 井出 孝利

発令 21.4.1 医事課医療連携・相談室長 五十嵐宏治

発令 21.4.1 法人経営室主幹兼総務課主幹  
 兼副課長(業務担当) 宮村 安治

転入 21.4.1 総務課主幹兼副課長(業務担当) 鎌田 大輔

昇任 21.4.1 企画財務課主幹兼副課長(総務担当)

小林 真

転入 21.4.1 学生課主幹兼副課長 遠藤 泰弘

昇任 21.4.1 医事課主幹兼副課長(業務担当) 江澤 淑子

**諸規程改正**

■ 平成21年 2 月から 5 月までの諸規程の制定改廃関係

1 「福島県立医科大学大学院医学研究科委員会規程」の一部改正 (平成21年 3 月 2 日制定・施行)

組織の明確化を図るため、大学院医学研究科委員会を構成する委員を明記するとともに、医学研究科長の名称を研究科長とする改正を行いました。

2 「福島県立医科大学大学院医学研究科長期履修に関する規程」の一部改正 (平成21年 3 月 2 日制定・4 月 1 日施行)

大学院医学研究科長期履修について、博士課程についてはその申請手続きを1年次の2月末日から3年次の2月末日とするとともに、履修期間も6年から8年に延長する旨の改正を行いました。

3 「福島県立医科大学大学院学則」の一部改正 (平成21年 3 月30日制定・4 月 1 日施行)

再編前の地域医療・加齢医科学専攻、機能制御医科学専攻、神経医科学専攻及び分子病態医科学専攻の4専攻について、平成21年 3 月31日現在で当該専攻に在学する者が当該専攻に在学しなくなる日までの間、当該専攻を存続する旨を追加する改正を行いました。

4 「公立大学法人福島県立医科大学役員報酬規程」の一部改正 (平成21年 3 月30日制定・4 月 1 日施行)

役員の基本給について、福島県と同様に平成19年 4 月 1 日から平成21年 3 月31日まで減額措置されておりましたが、福島県が更に2年間 (平成23年 3 月31日まで) 減額措置を継続することを受け、本法人でも役員の基本給の減額措置を平成23年 3 月31日まで継続する旨の改正が

行われました。

5 「公立大学法人福島県立医科大学任期付教員給与規程」の一部改正（平成21年 3月30日制定・4月 1日施行）

外部研究資金によりプロジェクト研究等を進める任期付教員の就業規則が「プロジェクト研究教員就業規則」に改められたことに伴い、「任期付教員」の文言を「プロジェクト研究教員」とする改正を行いました。

6 「公立大学法人福島県立医科大学准職員及び非常勤職員給与規程」の一部改正（平成21年 3月30日制定・4月 1日施行）

通勤手当について、自動車等を使用して通勤する職員に支給する手当の支給額を引き上げるとともに、自動車以外の原動機付きの交通用具（バイク）の手当額を新設する改正を行いました。

7 「公立大学法人福島県立医科大学職員給与規程」の一部改正（平成21年 3月30日制定・4月 1日施行）

通勤手当について、自動車等を使用して通勤する職員に支給する手当の支給額を引き上げるとともに、自動車以外の原動機付きの交通用具（バイク）の手当額を新設する改正を行いました。

また、給料の特別調整額として、一般職給料表5級3種の額を61,900円とする改正を行いました。

8 「公立大学法人福島県立医科大学諸料金規程」の一部改正（平成21年 3月31日制定・4月 1日施行）

附属病院の自由診療に関する料金（避妊処置料、妊婦検診料、1カ月検診料（母子））を県立病院や他病院等の状況に準じて改正するとともに、職員宿舍貸付料を県の職員公舎入居料の改正に準じた改正を行いました。

9 「公立大学法人福島県立医科大学組織及び運営規程」の一部改正（平成21年 4月 1日制定・施行）

病理学第一講座、病理学第二講座をそれぞれ病理病態診断学講座、基礎病理学講座に名称変更を行うとともに、病理病態診断学講座を臨床医学系に位置付けるなど、組織の再編のための改正を行いました。

内科系、外科系の講座については部門を設け、新たに部門長を置くとともに、それぞれ、講座の名称変更を行う等の改正を行いました。

10 「福島県立医科大学附属病院規程」の一部改正（平成21年 4月 1日制定・施行）

医療情報部及び地域連携部について、業務区分及び責任の明確化を図るため、医療情報・病歴を担当する「医療情報部」と病病・病診連携を担当する「地域連携部」にするとともに、「低侵襲・最先端外科」を「低侵襲・先端治療科」に名称変更するなど、附属病院の組織改正に関する改正が行われました。

11 「公立大学法人福島県立医科大学寄附講座に関する規程」の一部改正（平成21年 4月 1日制定・施行）

教員の任期制度導入により、外部研究資金でプロジェクト研究等を進める任期付教員との区別を図るため、就

業規則での任期付教員の名称が「プロジェクト研究教員」に変更されたことに伴い、寄附講座の職員の身分を「任期付教員」から「プロジェクト研究教員」とする改正が行われました。

12 「公立大学法人福島県立医科大学職員の再雇用等に関する規程」の一部改正（平成21年 4月 1日制定・施行）

高齢者等の雇用の安定等に関する法律第9条第2項に基づく労使協定を締結するため、関係条文の改正を行いました。

13 「公立大学法人福島県立医科大学職員就業規則」の一部改正（平成21年 4月 1日制定・施行）

職員就業規則における適用範囲を他の就業規則等の改正に併せ整理すると共に、裁判員法で規定する裁判員に選任されて出頭する場合の休暇の取り扱い等を規定しました。

14 「公立大学法人福島県立医科大学病院診療医就業規則」の一部改正（平成21年 4月 1日制定・施行）

診療医の名称を病院助手に改め、病院助手の業務を診療のほか、教育、研究に従事できることとしたほか、育児・介護休業法に基づく育児休業及び育児部分休業、介護休業の取得や、裁判員法で規定する裁判員に選任されて出頭する場合の休暇の取り扱い等を規定しました。

15 「公立大学法人福島県立医科大学後期研修医就業規則」の一部改正

16 「公立大学法人福島県立医科大学臨床研修医就業規則」の一部改正

17 「公立大学法人福島県立医科大学研修歯科医就業規則」の一部改正（平成21年 4月 1日制定・施行）

育児・介護休業法に基づく育児休業及び育児部分休業、介護休業の取得や裁判員法で規定する裁判員に選任されて出頭する場合の休暇の取り扱い等を規定しました。

18 「公立大学法人福島県立医科大学職員の育児休業等に関する規程」の一部改正（平成21年 4月 1日制定・施行）

公立大学法人福島県立医科大学診療医就業規則で職名の変更（「診療医」→「病院助手」）があったことから、関係する文言の改正を行いました。

19 「福島県立医科大学学則」の一部改正（平成21年 4月 1日制定・施行）

大学の夏季休業を「7月上旬から8月下旬までの間における8週間」から「7月中旬から9月下旬までの間における8週間」とする改正を行いました。

20 「公立大学法人福島県立医科大学役員報酬規程」の一部改正（平成21年 5月29日制定・施行）

福島県人事委員会から臨時勧告が出されたことを受け、県の知事等の特別職の期末手当を0.15月引き下げる条例が可決されたことから、本法人役員の本年6月の期末特別手当の支給割合を0.15月引き下げるための改正を行いました。

21 「公立大学法人福島県立医科大学職員給与規程」の一

部改正（平成21年 5 月29日制定・施行）

福島県人事委員会から臨時勧告が出されたことを受け、県職員の期末・勤勉手当を0.20月引き下げる条例が可決されたことから、本法人の一般職員の本年 6 月の期末・勤勉手当の支給割合を0.20月引き下げるための改正を行いました。

## 役員会・経営審議会・教育研究審議会・医学部教授会

### ■ 役員会

【平成21年 3 月25日 平成20年度第14回役員会】

- ・「組換え DNA 実験安全委員会」委員の選任  
次のとおり学長が選任した旨報告があった。  
錫谷 達夫 教授（医：微生物学講座）  
和田 郁夫 教授（医：細胞科学研究部門）  
遠藤 雄一 准教授（医：免疫学講座）  
片平 清昭 准教授（医：実験動物研究施設）  
亀高 論 講師（医：解剖・組織学講座）  
橋本 浩一 講師（医：小児科学講座）  
中川 恵子 講師（医：人間科学講座）  
早川 岳人 講師（医：衛生学・予防医学講座）  
本多たかし 教授（看：生命科学部門）  
増田 知之 助教（医：神経解剖・発生学講座）
- 任期は、平成21年 4 月 1 日から平成23年 3 月31日まで。

### ■ 経営審議会

【平成21年 3 月23日 第 4 回経営審議会】

- ・公立大学法人福島県立医科大学職員就業規則の一部改正について  
裁判員に選任されて裁判所に出頭する場合の休暇の取扱い、准職員の育児休業等取得に係る改正が承認された。
- ・公立大学法人福島県立医科大学任期付教員就業規則の一部改正について  
当該就業規則の名称変更に伴う改正が承認された。
- ・公立大学法人福島県立医科大学診療医就業規則の一部改正について  
「診療医」の名称を「病院助手」に改めること等の改正が承認された。
- ・公立大学法人福島県立医科大学組織及び運営規程の一部改正  
学内組織名称の変更及び組織の再編等による改正が承認された。
- ・福島県立医科大学附属病院規程の一部改正

組織の新設、再編、診療科の名称変更等による改正が承認された。

- ・平成21年度の年度計画（案）  
平成21年度の年度計画（案）が承認された。
- ・平成21年度予算（案）  
平成21年度予算（案）が承認された。
- ・公立大学法人福島県立医科大学諸料金規程の一部改正  
附属病院の自由診療に関する料金及び建物貸付料の改正が承認された。

### ■ 教育研究審議会

【平成21年 3 月23日 第 4 回定例教育研究審議会】

- ・名誉教授称号の授与  
本年 3 月31日付けで退任される鈴木利光教授、佐藤章教授、落合威彦教授に対し、名誉教授称号の授与が決定された。なお、称号の授与日については、本年の 4 月 1 日付けとされた。
- ・福島県立医科大学学則の一部改正  
夏季休業の時期を7月中旬から9月下旬に移動させるため、休業日の規定を改正する案が審議され、承認された。
- ・福島県立医科大学大学院学則の一部改正  
大学院専攻の再編に伴い、再編前の 4 専攻について、本年 3 月31日当該専攻に在学する者が在学しなくなる日までの間、4 専攻が存続する旨の附則を追加する案が審議され、承認された。
- ・公立大学法人福島県立医科大学組織及び運営規程の一部改正  
平成21年度の法人組織改正（病理学第一講座、病理学第二講座、内科及び外科講座の名称変更、内科系、外科系講座での部門長の新設等）に伴う組織及び運営規程の一部改正案について審議され、原案のとおり承認された。
- ・公立大学法人福島県立医科大学診療医就業規則の一部改正  
本学職員で診療に携わりながら教育研究を行う診療医等の身分等を整理するため、「診療医」の名称を教員の職階を参考に「病院助手」に変更する改正案について審議され、原案のとおり承認された。
- ・公立大学法人福島県立医科大学診療医就業規則の一部改正  
また、採用資格についても見直しを行い、医師確保の観点から、大学院生、大学院研究生、博士研究員であるという要件を廃止することについて審議され、原案のとおり承認された。
- ・平成21年度年度計画（案）の承認  
県での中期目標の中間見直しに伴い、中期計画を変更したことから、その変更内容（地域医療への理解を促進する教育、会津統合病院（仮称）等の項目追加等）を踏まえた来年度の年度計画案について審議を行い、原案のとおり承認された。
- ・利益相反への対応

産学官連携活動の推進に伴い、教育研究と企業等から得る利益とが相反する状態が発生することが考えられることから、本学の利益相反マネジメント体制整備について審議を行い、利益相反ポリシー案やマネジメントに関する要綱案について原案のとおり承認された。

## ■ 医学部教授会

### 【平成21年 3月18日定例教授会】

- 医学部部門長の選考  
内科学部門長として  
竹石 恭知 教授（内科学第一講座）  
外科学部門長として  
後藤 満一 教授（外科学第一講座）  
を選考し、理事長に内申することとされた。  
任期は、平成21年 4月 1日から 1年間

- 医学部教務委員会委員の一部改選  
次のとおり選任された。

和栗 聡 教授（解剖・組織学講座）  
細矢 光亮 教授（小児科学講座）  
大森 孝一 教授（耳鼻咽喉科学講座）  
村川 雅洋 教授（麻酔科学講座）  
藤野美都子 教授（人間科学講座）

任期は、平成21年 4月 1日から 2年間

- 医学部入学試験委員会委員の一部改選  
次のとおり選任された。

安村 誠司 教授（公衆衛生学講座）  
宇川 義一 教授（神経内科学講座）  
紺野 慎一 教授（整形外科科学講座）  
宍戸 文男 教授（放射線医学講座）  
藤野美都子 教授（人間科学講座）  
小林 恒夫 教授（自然科学講座）  
岡田 達也 教授（自然科学講座）

竹石 恭知 教授（内科学第一講座）【健康診断担当】

任期は、平成21年 4月 1日から 2年間（ただし、健康診断担当の任期は 1年間）

## 雑 報

## ■ 倫理委員会

### 【平成21年 1月 9日の委員会で承認又は条件付承認とされたもの（新規申請のみ）】

- No.772 認知症病名告知における心理的側面についての検討  
（申請者：神経精神医学講座 教授 丹羽真一）
- No.787 参加型アクションリサーチにおける研究倫理ガイ

ドラインの検討

（申請者：看護学部ケアシステム開発部門

教授 中山洋子）

- No.788 心臓血管外科手術における術後せん妄に対する抑肝散の有効性の検討（非投与群を対照とした二群間比較試験）

（申請者：心臓血管外科学講座 教授 横山 斉）

- No.791 甲状腺腫瘍に対する内視鏡手術

（申請者：乳腺・内分泌・甲状腺外科

部長 鈴木真一）

- No.792 甲状腺・副甲状腺疾患に対するソナゾイドによる造影超音波検査の鑑別診断における有効性の検討

（申請者：乳腺・内分泌・甲状腺外科

部長 鈴木真一）

- No.793 看護師による心疾患患者への生活指導の現状と課題

（申請者：大学院看護学研究科 教授 荒川唱子）

- No.795 心房細動例における心原性塞栓症予防のためのワルファリン療法の実態と至適 PT-INR 治療域の確立に関する多施設共同研究（J-RHYTHM Registry）

（申請者：内科学第一講座 教授 竹石恭知）

- No.796 大腸癌術後の消化管機能異常に対する大建中湯（DKT：TJ-100）の臨床的効果（プラセボを対照とした多施設二重盲検群間比較試験）

（申請者：低侵襲・最先端外科 部長 竹之下誠一）

- No.797 超高齢の親を在宅介護する高齢者の介護状況

（申請者：看護学部ケアシステム開発部門

教授 結城美智子）

- No.798 非ステロイド性アロマトマーゼ阻害剤無効の進行・再発乳癌を対象とした高用量クエン酸トレミフェンとエキセメスタンの無作為化比較試験

（申請者：外科学第二講座

主任事務取扱 棟方 充）

### 【平成21年 1月29日の委員会で承認又は条件付承認とされたもの（新規申請のみ）】

- No.779 福島県における訪問看護師の看護実践の質向上のための教育プログラムの開発—訪問看護師が看護実践上で抱える課題の抽出—

（申請者：看護学部基礎看護学部門

助教 丸山育子）

- No.794 思春期のがんの子どもと家族の情報共有の意味と療養上の意思決定の構造

（申請者：看護学部生態看護学部門

准教授 鈴木千衣）

- No.799 下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法の検討（一次性下肢静脈瘤に係るものに限る）

（申請者：心臓血管外科学講座 教授 横山 斉）

- No.800 新たな腎機能マーカーの臨床的意義に関する検討

<p>(高血圧合併糖尿病患者における薬物治療の影響) (申請者:内科学第三講座 教授 渡辺 毅)</p> <p>No.801 高血圧合併心疾患に対するアンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬+カルシウムチャンネル拮抗薬併用とアンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬+利尿薬併用との比較臨床研究 (申請者:内科学第一講座 教授 竹石恭知)</p>	<p>間頻尿質問票の反応性の検討研究 (申請者:泌尿器科学講座 教授 山口 脩)</p> <p>No.814 早期慢性膀胱炎および慢性膀胱炎疑診例の前向き予後調査 (申請者:内科学第二講座 教授 大平弘正)</p> <p><b>【平成21年 3 月 6 日の委員会で承認又は条件付承認とされたもの(新規申請のみ)】</b></p>
<p>No.802 慢性心不全の心血管機能に対するアンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬の効果に関する臨床研究 (申請者:内科学第一講座 教授 竹石恭知)</p>	<p>No.764 死産、新生児死亡を経験した母親のグリーフケアの検討 (申請者:附属病院看護部 主任助産技師 坂本弘子)</p>
<p>No.803 レーザードップラー血流計による末梢血管障害(PAD)のスクリーニングの検討 (申請者:整形外科科学講座 教授 紺野慎一)</p>	<p>No.777 長期入院中の子どもに付き添う家族同士の関係性とその形成プロセス—乳幼児の母親に焦点をあてて— (申請者:看護学部生態看護学部門 准教授 鈴木千衣)</p>
<p>No.804 骨髄異形性症候群における c-fos 誘導不全に対する senescence (細胞老化) の関与の検討 (申請者:薬理学講座 教授 木村純子) (申請者:内科学第一講座 教授 竹石恭知)</p>	<p>No.815 心アミロイドーシスに対する新治療戦略:ICD(植え込み型除細動器)併用自己末梢血幹細胞移植の試み (申請者:内科学第一講座 教授 竹石恭知)</p>
<p>No.805 肺末梢小型病変に対する X 線透視下極細径気管支鏡検査におけるバーチャル気管支鏡を用いたナビゲーションの有用性の検討 (申請者:臨床腫瘍センター センター長 石田 卓)</p>	<p>No.816 光トポグラフィを用いた不安障害患者の脳機能の評価 (申請者:神経精神医学講座 教授 丹羽真一)</p>
<p>No.806 気管支鏡検査におけるシリンジ法局所麻酔とカテーテル法局所麻酔の有効性の比較研究 (申請書:臨床腫瘍センター センター長 石田 卓)</p>	<p>No.817 糖尿病患者における血糖自己評価を含めた血糖コントロールの関連要因の検討 (申請者:公衆衛生学講座 教授 安村誠司)</p>
<p>No.807 「医療用麻薬」の自己管理運用マニュアル作成のための現状調査 (申請者:臨床腫瘍センター センター長 石田 卓)</p>	<p>No.818 多孔式カテーテルを用いた持続浸潤麻酔法による術後鎮痛の研究 (申請者:麻酔・疼痛緩和科 教授 村川雅洋)</p>
<p>No.808 福島県立医科大学附属病院におけるがんの病状説明(いわゆる告知等)に関する意識調査と説明方法の検討 (申請者:臨床腫瘍センター センター長 石田 卓)</p>	<p>No.819 慢性腎臓病患者における心電図同期心筋 SPECT の有用性検討のための調査研究(J-ACCESS III) (申請者:内科学第一講座 教授 竹石恭知)</p>
<p>No.809 60 GHz ミリ波曝露による温感知覚域値の測定 (申請者:神経内科学講座 教授 宇川義一)</p>	<p>No.820 運動器の機能向上プログラムの疼痛改善に対する有効性の評価等に関する研究 (申請者:公衆衛生学講座 教授 安村誠司)</p>
<p>No.810 標準療法不応肺癌(非小細胞肺癌)に対する HLA-A 24拘束性新規腫瘍精巢抗原および新生血管関連抗原エピトープペプチド(URLC 10, CDCA 1, VEGFR 1, VEGFR 2)を用いた腫瘍特異的ワクチン療法(第Ⅰ相臨床試験) (申請者:外科学第一講座 教授 後藤満一)</p>	<p>No.821 父親の育児の自信とその関連要因について (申請者:公衆衛生学講座 教授 安村誠司)</p>
<p>No.811 パスツール処理自家骨移植を用いた下顎再建法 (申請者:歯科口腔外科 准教授 長谷川博)</p>	<p>No.822 婦人科悪性腫瘍における腫瘍関連マクロファージ、腹膜中皮細胞による微小環境についての検討 (申請者:産科婦人科学講座 教授 佐藤 章)</p>
<p>No.812 過活動膀胱患者を対象とした夜間頻尿質問票の反応性の検討研究 (申請者:泌尿器科学講座 教授 山口 脩)</p>	<p>No.823 心不全の発症登録と予後追跡調査 (申請者:内科学第一講座 教授 竹石恭知)</p>
<p>No.813 前立腺肥大症に伴う排尿障害患者を対象とした夜</p>	<p>No.824 脳血管疾患による後遺症に対する足浴による睡眠の援助 (申請者:附属病院看護部 看護師長 目黒文子)</p>
	<p>No.826 肝不全用経口栄養剤(アミノレバン EN®)を用いた肝腫瘍合併肝硬変患者における栄養状態改善効果についての検討 (申請者:内科学第二講座 教授 大平弘正)</p>



- No.827 ストーリーテリングが子どもの脳に及ぼす影響  
(申請者：神経精神医学講座 教授 丹羽真一)
- No.828 ぶどう膜炎前向き疫学調査  
(申請者：眼科学講座 教授 飯田知弘)
- No.829 乳房部分切除術後の放射線治療による副作用の傾向  
(申請者：放射線医学講座 教授 宍戸文男)
- No.830 先天性サイトメガロウイルス感染症に対するガンシクロビル投与の有用性と安全性に関する研究  
(申請者：小児科学講座 教授 細矢光亮)

## ■ 講座の名称変更等について

○平成21年 4月 1日から講座の名称が次のとおり変更になりました。

(旧)	(新)
病理学第一講座	→ 病理病態診断学講座
病理学第二講座	→ 基礎病理学講座
内科学第一講座	→ 循環器・血液内科学講座
内科学第二講座	→ 消化器・リウマチ膠原病内科学講座
内科学第三講座	→ 腎臓高血圧・糖尿病内分泌代謝内科学講座
外科学第一講座	→ 臓器再生外科学講座
外科学第二講座	→ 器官制御外科学講座

○内科系、外科系講座について、新たに部門が設けられました。

内科学部門…循環器・血液内科学講座
消化器・リウマチ膠原病内科学講座
腎臓高血圧・糖尿病内分泌代謝内科学講座
神経内科学講座
呼吸器内科学講座
外科学部門…臓器再生外科学講座
器官制御外科学講座
心臓血管外科学講座

○病理病態診断学講座は臨床医学系に位置付けられました。

## ■ 学生の部活動報告

### 陸上競技部

医学部5年 遠藤 祐子

多くの福島医大生にとって部活動は学生生活の少なからぬ部分を占めるものであり、他の医療系の大学と比べても、恐らくその活発さは、他の追随を許さないものがあるように思います。本稿では私の所属する陸上競技部での活動を振り返ることで、皆さんに部活動の様子を少しお伝えできればと思います。

我が陸上競技部は現在部員数37名、OB・OGも合わせると160名を超えます。現役部員のうち、男子部員は17名、女子部員は20名であり、今シーズンは新たに10名の部員を迎えました。ここ数年我が部の部員数は増加の傾向にあり、年々部活が活気付いていくことは、嬉しい限りです。昨シーズンの主な大会は6月の北日本医科学学生陸上競技大会(北医体)、8月の東日本医科学学生総合体育大会(東医体)であり、北医体では女子4×400mR優勝、東医体では男子総合4位、女子総合2位、女子トラック優勝などの成績を修めることができました。その中でも特筆すべきなのは北医体での女子4×400mRで、これは大会新記録での優勝でした。この勢いを来シーズンにも繋げていきたいところです。



普段の練習は、基本的に主将・各ブロック長を中心として週4回の頻度で行っていますが、我が部にはそれぞれのスタイルを尊重しあう雰囲気があり、皆思い思いの目的を持って活動に取り組んでいます。スティックに毎日欠かさずトレーニングに励む人、それを見守りに来る人、軽いジョギングやおしゃべりを楽しみに参加する人など様々です。また、普段走っていると、あちらこちらから「ただ走っていて何が楽しいの?」とよく尋ねられます。確かに、練習量対効果の面から考えても、他のスポーツと比べると上達を実感しづらいスポーツかも知れませんが、「もう走れない」と悲鳴を上げている身体に鞭打って次の一本を走り

出さなければならない瞬間は「もう陸上なんてやめてやる!」と思うくらい辛いのですが、それでもなお陸上競技には、それに負けないほどの魅力があると思います。一言で表すのは難しいですが、0.1秒、1cm記録を良くするために考え、試し、修正しながら磨き上げていく過程、と言えるかも知れません。そして実は、このことはどのクラブ活動に所属している学生にも通じるところなのではないかと思えます。部活動を通じて自分と向き合い、また仲間と高めあうことは、将来医療人として働く上でも、大切なことだと思えます。

最後になりましたが、このような部活動を支えてくださっている方々にこの場をお借りして御礼申し上げたいと思います。顧問の藤田禎三先生、OB・OGの皆様方には試合や各行事の度に大変お世話になっております。これからも変わらぬご支援・ご指導の程宜しくお願い致します。また、その他大勢の方々のご理解・ご協力があって私達の部活動は成り立っています。重ねて、この場をお借りして御礼申し上げます。



## 赤十字奉仕団

医学部5年 齋藤 康

私たち福島県立医科大学学生赤十字奉仕団は、現在約120名の団員で活動しています。この人数というのは、福島医大の学生団体の中でも最多です。そして、全国の医大の学生赤十字奉仕団の中でも最大規模の団体であるということ、赤十字奉仕団福島県支部の方から教えてもらいました。

福島医大の赤十字奉仕団の特徴は、団員一人一人が6つのグループに属している点です。それでは、6つのグループについてそれぞれ詳しく紹介していきたいと思います。

まず「小児科訪問グループ」です。その名の通り、医大小児科棟に入院する子供たちを月に2回（土曜日）訪ね、一緒に工作をして遊びます。7月には七夕の会、12月にはクリスマス会という2大イベントもあります。七夕の会では、影絵で織姫と彦星の昔話をやり、その後に短冊に願い事を書きます。クリスマス会では、団員がサンタやトナカイの着ぐるみを着てプレゼントをあげます。入院している子供たちは、街中や学校で味わえる季節感をなかなか体験できないようなので、とてもよい機会を与えてくれると喜ばれます。

次に「献血グループ」について説明します。街頭で拡声器やティッシュ配りをしながら、市民の皆さんに献血を呼びかけます。特に、3日間に及ぶクリスマス献血キャンペーンでは、高校生にも手伝ってもらい、寒さに負けず、みんなで楽しく呼びかけます。



続いて「青葉学園グループ」です。青葉学園という児童養護施設に毎週木曜日に行き、中学生に勉強を約80分教えています。この施設には2歳から高校3年生まで定員60名の子供たちが住んでいます。子供たちの半数以上が虐待を理由に保護されるケースであるそうです。しかし、ここに住む子供たちはみんな元気いっぱい、いつも楽しく勉強しています。

「作業所グループ」について説明します。身体に障害をもつ方々が働いている作業所が主催するバザーのお手伝いをするグループです。主にテント設営やレジ係、荷物運び

などを手伝っています。また、お花見、キャンプ、クリスマス会なども一緒にして、お酒を飲みながら色々な話を聞くことができ、大変楽しいです。

次に「自閉症グループ」です。自閉症やダウン症候群の人たちと、ポニー教室や料理教室、バスで小旅行に出掛けます。また夏の安達太良登山は一泊旅行で、初日にキャンプファイヤーをして、子供たちと一緒に風呂に入り、夜は親御さんたちと飲み会をして親睦を深めます。そして次の日に登山では頂上からの絶景をみんなでお弁当を食べながら見ます。



最後に「障害者スポーツグループ」です。毎週木曜日には卓球・シッティングバレー、土曜日は車椅子バスケットを行っています。これは私たちも障害者の方々と一緒にプレーして、大会にも選手として出ることができるので、ボランティアというよりも普通の部活みたいな感覚で楽しく汗を流しています。



これらのグループに1人ずつ属しているわけですが、もちろん他のグループに顔を出すこともできます。そして色々な人と出会い、色々な形のボランティアを学ぶことができます。学生の今でしかできないこれらの貴重な経験は、これから医療者として働いていく私たちにとってかけがえないものとなることと思います。

編集発行 公立大学法人福島県立医科大学  
事務局企画財務課  
〒960-1295 福島県福島市光が丘1番地  
TEL 024(547)1013 FAX 024(547)1991